



《学校教育目標》豊かな心を持ち 自ら考え たくましく生きる子の育成
～学び合い 高め合う なかまづくり～

“相和ハッピー祭” 終える ～相和祭と収穫祭を同日開催に～ 【令和4年10月29日（土）】

今年から、体育的行事である「相和祭」と文化的行事である「収穫祭」を合体させ、新たに「相和ハッピー祭」として実施しました。

内容を検討する際に、子供たちと児童会担当及び体育担当の職員も交え、新たな名称を決め、具体的な種目等も子供たちと職員とで創り出した行事でした。

運動会から継続している徒競走は、全力で走り切る姿を見ることができました。表現運動には、多くの時間をかけ、細部までこだわりながら大きな動きで表していて、見ごたえがありました。また、委員会種目では、昨年度の反省を生かし、わかりやすく見ていて楽しいものとなりました。

後段では、グラウンド中央につくりあげたシンボルタワーに火をつけ、過日収穫したサツマイモを焼いて、みんなで食しました。考えていた以上に焼けるのに時間がかかってしまったため、イベントを担当した環境委員会の児童は少々焦ったところですが、臨機応変に行動し、無事充実した時間を過ごすことができました。

児童数が少なくなってきたとはいえ、盛り上がり様子から、「相和っ子 ここにあり」を改めて感じました。当日は、感染症対策を講じて応援してくださった保護者の方々の存在が、本当に心強かったです。



いい顔しているね！ 相和っ子 全員集合！！



6年生の主体性がたくさん見られました

「子育てアラカルト⑭ ～『学校が楽しくない』と言ったら～」

学校から帰ってきて、子供が「学校が楽しくない」と言ったら、みなさんはどう対応しますか？おそらく、「どうして？」「何があったの？」と聞くのではないかと思います。

では逆に、学校が楽しい時とはどういうときでしょうか？「みんなと協力して何かを成し遂げたとき」「わからなかったことがわかったとき」「新しい発見をしたとき」などがあると思いますが、「自分の思い通りになったとき」もその一つかもしれません。「楽しい」という言葉を聞くと安心しますね。では、元に戻してみると、自分の思い通りにならなかったときに「楽しくない」と感じる可能性があるということです。よくわかる話ですが、その時に大人はなんと声を掛けるとよいのでしょうか？

過日の学校保健委員会でも話しましたが、私は「仲良く」という言葉があまり好きではありません。誰一人としてコピーではなく、一人の人格者として存在する子供たちは、資質・能力が異なり、それに伴い価値観が違うのは当然です。その中で価値観が近い場合仲良くなりやすく、価値観が大きく異なると仲良くなりにくいということなのでしょう。だからこそ、簡単に仲良くはなりえないのです。そこで必要なのが「折り合い」を付ける能力になります。自分の主張と相手の主張の折り合いを付けて、ベターな方向性を導き出す力が必要だと感じます。「喧嘩するほど仲がいい」使い古された言葉ですが、改めて考えるとなるほど、と思います。「楽しくない」という言葉は、成長する絶好のチャンスかもしれません。

感染拡大に警戒を ～第8波に備えます～

子供たちの欠席が少なく、笑顔が多いと感じる本校ですが、ニュースからは「感染拡大第8波」という言葉が聞こえてきます。

学校では、これまで様々な感染拡大防止対策を講じてきましたが、今後も引き続き取り組んでいきます。手洗いやうがい、消毒はもちろんのこと、忘れがちな人との距離についても、再度指導していきたいと思ひます。

保護者の皆様におかれましても、毎日の健康チェックカードの記入へのご協力いただいているところですが、丁寧な対応いただいております、ただただ感謝しかありません。“With コロナ”はまだ続きそうですが、取り戻すことができない小学校生活の一年一年が充実したものになるよう、職員一同アイデアを出し合って前進していきます。

祭りだワッショイ！ ～3年生の総合的な学習の時間の取組～

現在、各学年において12月3日の学習発表会に向けた学びが継続して行われています。本校の学習発表会は、これまでの学びの成果をアウトプットする場として、オリジナル台本に基づく劇や異学年合同学習で取り組んできた合奏などを発表します。

そのような中、3年生は「祭」をテーマに、大井町はもちろんのこと近隣で行われている祭から得られる「力」について学んできました。ハッピー祭の開会式の時にも述べましたが、今年は、「3年ぶり」という言葉が多く聞かれ、日本各地の祭も久々に開催したというニュースを数多く聞き、祭から得られる力の大きさを感じるころです。

3年生の6名は、神輿やプチ遊戯場を創り上げ、他学年の子たちが楽しめるようなアイデアをたくさん生み出しました。全校を巻き込み、生き生きとした笑顔をたくさん生み出した素晴らしい取組でした。



あいさつ+ONE 早朝街頭運動 【令和4年11月9日（水）】

10月18日に行われた児童代表委員会では、児童会テーマ達成に向けて「みんなで増やそうハッピーあいさつ～あいさつはきはき アイコンタクト～」という後期の重点取組が伝えられました。現在、各学年があいさつサポーターとして昇降口で啓発運動を行っています。

そのような中、町全体で実施しているあいさつ+ONE運動にも教職員も含め、学校全体で取り組みました。社会の縮図となるべき学校で、あいさつの大切さ、気持ちよさは様々な場面で伝えてきましたが、すでに日常化してきたと感じます。日頃からの地域や保護者の方々の丁寧なご指導の賜物です。気持ちのよいあいさつをしていただき、ありがとうございます。



うれしい報告

夏休み中に児童が取り組んだ課題等の中で、多くの作品が表彰を受けました。とても素晴らしいことで、うれしい報告でした。まだ、すべての結果が確定してはいませんが、このタイミングでお伝えさせていただきます。

夏休みは、日頃じっくりと取り組むことが難しいことにチャレンジする絶好の機会です。自分の可能性を信じ、取り組んだ姿勢こそが立派です。

ここでは、個人名は掲出しませんが、児童昇降口付近の掲示に報告してありますので、来校の際にご覧いただければ幸いです。

町福祉作文
町子ども絵画展
町交通安全標語
税の書道展

優秀賞2名
優秀賞4名
優秀賞1名
銅賞1名
佳作7名
努力賞3名
金賞1名

世界は一つの美術展

11月22日現在

学校保健委員会「多様性を知ろう ～みんな違って、みんないい～」

年度当初のPTA総会でお示した本校のグランドデザインに、今年度から「めざす子ども像」の中に「多様性を認め、思いやりの心をもつ」を入れました。クラス替えがない本校では、数多くのメリットもありますが、人間関係の固定化というデメリットがあることは見逃せません。

11月10日に外部から講師を招き、講話及びワークショップを実施しました。参加は4年生以上の22名でしたが、人間関係づくりのスキルを学び、新たな発見があったようです。人権感覚を磨き、人権意識を高くすることはとても大切です。

今回は、多くの保護者の方々にもご参加いただきました。感想を拝見したところ、明日からの子育てへの活力がとても伝わってきました。

